

めぐみイエス・キリスト教会

2025年4月27日(日) 第四主日イースター礼拝

午前10時より

週報「通算第756号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌355「主と共に歩む」 p. 568

【交読文】 No.53 ルカの福音書22章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌101「イエスよ十字架に」 p. 141

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「主を誉め讃え続けよ」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章18節～21節 (p. 131下段)

【礼拝説教】 《シモン・ペテロのキリスト告白》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書9章18節～21節)

9:18 さて、イエスが一人で祈っておられたとき、弟子たちも一緒にいた。イエスは彼らにお尋ねになった。「群衆は私のことをだれだと言っていますか。」

9:19 彼らは答えた。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人たち、昔の預言者の一人が生き返ったのだと言う人たちもいます。」

9:20 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、私をだれだと言いますか。」ペテロが答えた。「神のキリストです。」

9:21 するとイエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じられた。

●ポイント1. 共観福音書における平行記事から

※マタイの福音書16章13節～20節「ピリポ・カイサリア」 (新約p.33)

16:13 さて、ピリポ・カイサリアの地方に行かれた時、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。

16:14 彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人たちも、エリヤだと言う人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています。」

16:15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、私をだれだと言いますか。」

16:16 シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」

16:17 すると、イエスは彼に答えられた。「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられる私の父です。

16:18 そこで、私もあなたに言います。あなたはペテロです。私はこの岩の上に、私の教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。

16:19 私はあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」

16:20 そのときイエスは弟子たちに、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と命じられた。

●ポイント2. 主イエス様の取りなしの祈り

※ルカの福音書22章31節～32節「三度知らないと言う」 (新約p.166)

22:31「シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。

22:32 しかし、私はあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

◎先週のメッセージ【週の初めの日の明け方】

《さて、前日のことです。祭司長たちとパリサイ人たちが、何と安息日の決まりを破って、ローマ総督ピラトのもとにやって来たのです。

「閣下。人を惑わすあの男がまだ生きていた時、『私は三日後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。ですから、三日目まで墓の番をするように命じて下さい。弟子たちが来て、彼を盗み出し、『死人の中からよみがえった』と民に言うかもしれません。そうになると、この惑わしのほうが、前の惑わしよりもひどいものになります。」
「番兵を出してやろう。行ってできるだけしっかりと番をするがよい。」

さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方のことです。主の使いが天から降りて来て、墓のふたの丸い石をわきに転がしました。その姿は稲妻のようで、その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになったのです。本来ならば、四人のローマ兵たちは百人隊長に報告すべきでしたが、彼らは大祭司とパリサイ人たちの所に向かったのです。なぜなら、見張りに失敗した兵士は、死罪が定められていたからです。彼らは、祭司長たちに起こったことすべてを報告します。

そこで祭司長たちは集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて言いました。「弟子たちが夜やって来て、我々が眠っている間にイエスを盗んで行ったと言いなさい。もしこの事が総督の耳に入っても、私たちが説得して、あなたがたには心配をかけないようにする。」

主イエスは、弟子たちだけでなく、異邦人や最高法院の議員たちにも、ご自身が、真に復活されたしるしの軌跡を残されたのです。

大切な真理は、主イエスは、彼らの為にも身代わりとなって十字架にかかって死なれ、三日目によみがえられたことです。そして復活の時こそ、「すべての人の主」になられた時なのです。伝承では、主の十字架は紀元30年頃。この時、生きていたすべてのユダヤ人にも悔い改めの機会が与えられました。その期間は、何と40年です。》

◎お知らせ

※次回は、2025年5月4日午前10時より、平常通りに行ないます。